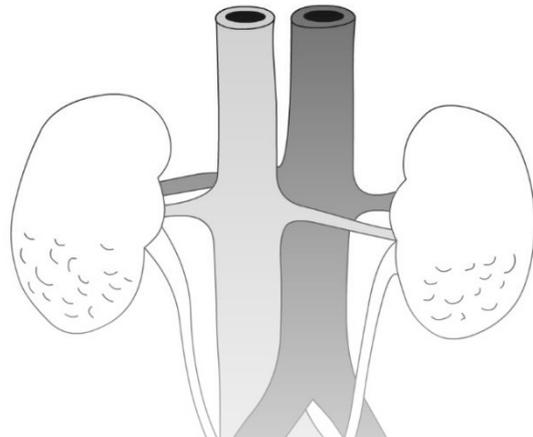


知っていますか

CKD



CKD（慢性腎臓病）とは、腎障害を示す所見や腎臓の機能低下が慢性的に続いた状態を指します。**新たな国民病**とも言われている疾患で、患者は**日本人成人の約8人に1人**とも言われています。最終的には、自分で尿が作れなくなり、週に数回、病院で人工透析を受けなければなりません。透析は一度始めると、基本的に**一生続ける**必要があり、非常に重い**医療費負担**と**時間的負担**となります。

当てはまるものはありませんか

- 親族に透析を受けている方、
腎疾患をお持ちの方がいる
- メタボリックシンドロームと診断された
- 血圧高値・血糖高値・脂質異常
を指摘された
- 腎機能(eGFR・クレアチニン)
で経過観察が必要と言われた

腎機能低下に
気をつける必要
があります
腎チェック
で調べてみましょう



透析が必要になる前に…

早期からリスクを知り、予防していくことが重要です

腎チェック で早期段階から備えていきましょう

腎チェックは、CKD（慢性腎臓病）の早期発見と重症化予防を目的とした検査です。腎機能低下に係る2つの物質**L-FABP**と**mALB**を組み合わせることで測定することによって、早期診断に有効であることが研究で示されています。

これらの物質は測定されているeGFR・クレアチニンよりも**早期かつ精度よく**腎症進展を予測できると報告されています。

検査価格 ??, ???円

腎チェック検査とは？

- ✓ 尿中L-FABPと尿中アルブミンを測定する、慢性腎臓病（CKD）の早期発見と重症化予防を目的とした検査です。
- ✓ L-FABPは腎機能低下の原因である尿細管虚血に伴う酸化ストレスの亢進をとらえるマーカーです。
- ✓ mALB（尿中アルブミン）は腎機能低下の結果を反映するマーカーです。
- ✓ eGFR・クレアチニンよりも早期かつ精度よく腎症進展を予測することができると報告されています。

早期診断への有用性と高い精度が報告されています

【方法】

糖尿病性腎症患者147例の尿中L-FABP値を病期により選別して平均および標準偏差を算出し、健常人における尿中L-FABP値も合わせて示した。

【結果考察】

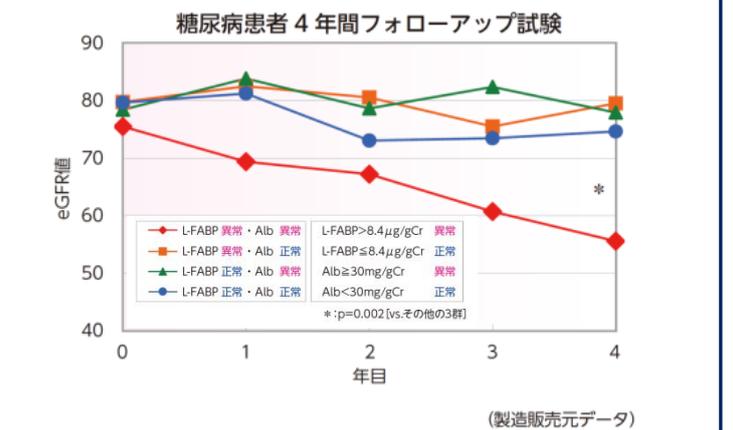
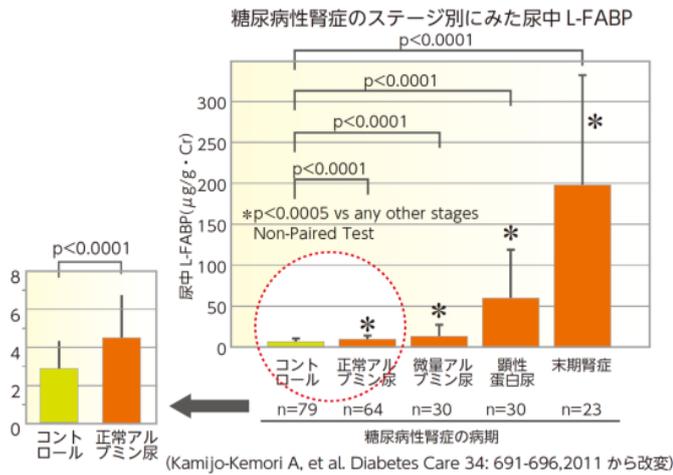
糖尿病性腎症患者の尿中L-FABP値は病期の進行とともに増加し、健常者に比べ腎症早期より有意に高い値を示すことから、糖尿病性腎症の早期診断に有用であることが示唆された。

【方法】

糖尿病患者147例のうちeGFR \geq 60の86例について、初年度の尿中L-FABP（正常：8.4 μ g/gCr以下）と尿中アルブミン（Alb）（正常：30mg/gCr未満）により層別した4群についてのeGFRの変化を追跡した。

【結果考察】

尿中L-FABPと尿中アルブミンともに異常値を示した群は4年後の腎機能が有意に低下した。尿細管機能を反映する尿中L-FABPは、糸球体障害の指標である尿中アルブミンと同時に測定することによって、高精度にリスク群を判別できることが示唆された。



◆検査結果サンプル

腎チェック検査結果報告書

氏名: サンプル タロウ | 性別: 男性 | 年齢: 50 | 検査日: 2019/1/1

検査結果

あなたの腎障害の可能性は **高リスク** です。

縦軸: 尿中L-FABP | 横軸: mALB(尿中アルブミン)

※今回の検査結果は、4.00でした。
 ※今回の検査結果は、300.0でした。

総合評価コメント

腎チェックは現在の腎臓の健康状態を調べる検査です。この結果は将来の慢性腎臓病(CKD)の発症及び進行を予測しています。今回の結果は高リスクに分類されました。この結果は慢性腎臓病が原因であれば腎臓が正常に機能していない可能性が考えられます。一方で、この腎機能の低下は、一時的な生活習慣の変化やストレスによる一過性の可能性も考えられます。その為、医師の診察を受け、今回の結果が慢性腎臓病によるものかをご相談頂く事をお勧めします。

慢性腎臓病(CKD)について

慢性腎臓病(CKD)は腎臓の健康状態の悪化(血流不全や酸化ストレスの上昇)により、その機能が低下する病気です。腎臓の機能は生命維持のために、腎機能低下は全身に影響を及ぼします。また、一度壊れた腎臓はもとに戻りません。健康的な生活習慣を継続し、CKD(慢性腎臓病)の予防に努めましょう。

腎障害予防のために

要検査: 二次検査の受診をおすすめします
 高リスク: 既に慢性腎臓病が進んだ疑いの可能性が考えられますので、医師の診察を受け、治療開始や重症予防の方針をご相談下さい。
 中リスク: 健康的な生活習慣の維持に努めましょう
 低リスク: 慢性腎臓病は初期段階ではまったく自覚症状がない場合が多い疾患です。そのため定期的に腎チェックを受診するとともに、慢性腎臓病を予防するための生活習慣を継続しましょう。

慢性腎臓病予防のためへの取り組み

- 生活習慣病を適切に治療する
 慢性腎臓病の発症には、糖尿病、高血圧、脂質異常症などの生活習慣病が強く関係しています。治療を適切に開始し、中断しないことが発症予防につながります。
- 健康的な食事で適正体重を維持しましょう
 たばこや酒のとりすぎを避けるため、毎日の食事はバランスよく、そして塩分は一日に減らしましょう。バランスのとれた食事で適正体重を維持しましょう。
- 適度な食塩摂取は避けましょう
 適度な食塩摂取は血圧上昇を抑えます。1日4グラム未満の摂取をおすすめします。
- アルコールは適量を！喫煙はやめましょう
 適量の飲酒、喫煙は血管収縮や血圧上昇を抑えます。
 アルコールの適量: 男性20g未満、女性10g未満
- 薬の飲み方には注意が必要です
 鎮痛剤などを常用していると、腎臓の負担になります。
- 定期的な検査を受けましょう
 定期的に検査をし、現在の状況を把握することが発症予防につながります。
- 腎臓病の疑いのある方は注意しましょう
 糖尿病、高血圧、肥満の入り、腎臓病の疑いがある方は特に注意が必要です。

※ 日本腎臓学会 編 「生活習慣病からの慢性腎臓病導入患者の減少に向けた対策」

ビジュアル化した見やすい結果にてリスク表示を行います。結果には全て総合コメントと個別項目についての解説とコメントをつけてお返し致します。